

授業概要

企業を経営していくうえで、自社が製造する製品の原価を把握することは大変重要です。なぜならば、企業は自社製品の販売を常に利益確保の源泉とすることが求められているからです。時には競合製品との間で価格競争をしていかなければならず、その際には勝てる競争か否かの判別が不可欠となります。負ける競争を続けていては企業の体力が弱り、最悪の場合は撤退・消滅も避けられません。こうした観点から、原価計算はその原価把握のために大変重要なことは明らかでしょう。本授業ではその原価計算に必要な工業簿記の仕組み、個別受注生産の個別原価計算と大量見込生産の総合原価計算を中心に解説し、商業簿記にはない要素も強調しながら講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、工業簿記と原価計算の基礎、勘定連絡図
第 2 回	原価の形態別分類・費目別計算①（材料費）
第 3 回	原価の形態別分類・費目別計算②（労務費）
第 4 回	原価の形態別分類・費目別計算③（経費）
第 5 回	個別原価計算①製造直接費の賦課、製造間接費の実際配賦
第 6 回	個別原価計算②製造間接費の予定配賦、個別原価計算における仕損
第 7 回	部門別個別原価計算①製造間接費の配賦（第 1 次集計）
第 8 回	部門別個別原価計算②補助部門費の配賦（第 2 次集計：直接配賦法、相互配賦法）
第 9 回	部門別個別原価計算③製造部門費の実際配賦・予定配賦
第 10 回	総合原価計算①単純総合原価計算、月末仕掛品原価の計算
第 11 回	総合原価計算②月初仕掛品がある場合の計算（平均法、先入先出法）
第 12 回	総合原価計算③工程別総合原価計算・組別・等級別総合原価計算
第 13 回	総合原価計算④仕損と減損
第 14 回	総合原価計算⑤材料追加投入
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

原価計算の必要性を理解し、日商簿記 2 級工業簿記レベルのうち、費目別計算、個別原価計算、総合原価計算の範囲において、知識が習得され、ひととおりの計算ができる。

履修上の注意

講義には例題、練習問題の確認が必要となり、計算機能だけの電卓持参が必要となる。

予習・復習

予習として教科書の次回範囲につき 30 分。復習として教科書と配付プリント等の前回範囲につき 60 分がそれぞれ必要。

評価方法

定期試験が 60%、平常点が 40% で評価。平常点は受講態度、授業関与度合いを中心に評価。

テキスト

※教科書については、開講時別途指示します。

- 参考書：よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 2 級工業簿記 Ver.10.0
- 著者名：TAC 株式会社（簿記検定講座）編著
- 出版社名：TAC 株式会社出版事業部
- 出版年：2024 年